

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	673000477
法人名	医療法人 徳洲会
事業所名	グループホーム「ひまわりの丘」
訪問調査日	平成 19 年 10 月 4 日
評価確定日	平成 19 年 12 月 10 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月28日

【評価実施概要】

事業所番号	673000477		
法人名	医療法人 徳洲会		
事業所名	グループホーム「ひまわりの丘」		
所在地 (電話番号)	山形県東田川郡庄内町松陽一丁目1番地6 (電 話) 0234-45-1050		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成19年10月4日	評価確定日	平成19年12月10日

【情報提供票より】(平成19年9月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 3 月 26 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 11 人 非常勤 1 人 常勤換算	11.53 人

(2)建物概要

建物形態	併設／○単独		新築／改築
建物構造	鉄筋造平屋建て 造り		
	1 階建ての	階 ～	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	12,000円 他実費
敷 金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 750 円		

(4)利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	7 名	要介護4	5 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.8 歳	最低 73 歳	最高 102 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 山形愛心会 庄内余目病院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは医療施設や介護施設エリア内の四季を身近に感じられる自然豊かな環境にあり、ホームを運営する同一法人職員と合同で行われている各委員会活動も盛んな、「個別ケア」と「介護の質」を高めることに取り組んでいるホームです。
また、地域との交流を進めながら、傾聴ボランティアの導入、小中学生のボランティア活動の受け入れ、認知症対応型通所介護事業の開始など、地域の社会資源の拠点としての活動にも今後の期待が高まるホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題(要改善点)はありません。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価はフロア会議で全員で取り組み、その意義や活用を理解し、積極的に質の向上に活かしている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	近接3地区の自治会長、地域住民、家族、行政の担当者、消防署、警察署など多数の関係者が出席して2ヶ月に1回開催しており、緊急連絡網の作成には会議で出された意見も反映されている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	家族会開催時や面会時などに意見や苦情を聞き出す努力をしており、また、併設施設合同の相談・苦情処理委員会で検討し、運営に反映させている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会や子ども会との公園の草取りや花壇作り、夏祭りやクリスマス会などが開催され、また、老人クラブやボランティア、中学生の体験学習、障害者施設との交流も盛んである。

2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中にも「地域の高齢者がどこでも充実した暮らしが出来るように支援し」と掲げ、地域住民と密接な関係を築きながらサービスを提供している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念やスローガンにもあるように「いっしょに、ゆっくり、楽しく」は、日々のケアの中で立ち止まり、ケアを振り返る指針として活用している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や子ども会との公園の草取りや花壇作り、夏祭りやクリスマス会などが開催され、また、老人クラブやボランティア、中学生の体験学習、障害者施設との交流も盛んである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はフロア会議で全員で取り組み、その意義や活用を理解し、積極的に質の向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近接3地区の自治会長、地域住民、家族、行政の担当者、消防署、警察署など多数の関係者が出席して2ヶ月に1回開催しており、緊急連絡網の作成には会議で出された意見も反映されている。		

山形県 グループホーム「ひまわりの丘」

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	常時、質問や相談にのってもらっており、今年度から開始する通所介護についても適切な指導を受け、共にサービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書と一緒に、身体状況や暮らしぶりの手紙を家族ごとに送っている。また、預かり金の収支明細書も同封し、職員の異動はホームの通信に載せ、面会の際にも紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会開催時や面会時などに意見や苦情を聞き出す努力をしており、また、併設施設合同の相談・苦情処理委員会で検討し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動は最小限で行われており、介護のベテラン職員が配置され、記録の引継ぎにより利用者へのダメージを少なくしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設施設と合同の教育委員会が勉強会を開き、全員参加で研修している。段階に応じた研修、希望による研修や資格取得にも機会を与えている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山形県グループホーム協議会に加入し、交換研修などの受け入れやネットワーク作り、勉強会を通じて、お互いに向上し合う活動を展開している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	認知症の症状が重い利用者や徘徊の激しい人もいるが、常に寄り添いながら生活することを通して、共に支え合い教え合う関係を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、利用者の思いや希望を引き出している。「今で十分だ」と満足している方にも意向を汲み取り、家族の意見も取り入れている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月ごとに、介護計画の課題分析を全職員のフロア会議で行っている。本人、家族、関係者と話し合いを重ね、細かく介護計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	急な介護計画の見直しの際はミニ・ケアプランを仮作成し、必要に応じて検討をし、新介護計画として完成させている。その際、職員間の申し送りを確実にするため、「連絡ノート」を活用している。		

山形県 グループホーム「ひまわりの丘」

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	かかりつけ医への通院は家族が対応しており、情報の 提供や交換は受診簿を基に行われ、適切な受診を支 援している。また、複数の医師による往診も行われてい る。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	看取り介護についてはホーム利用開始時に説明し、終 末期の意向の確認をしている。本人、家族、かかりつけ 医、協力病院や訪問看護ステーションとその対応を協 議し、全員で方針の共有をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	個人情報の保護はもちろんのこと、ゆっくり、優しく言葉 かけを行い、利用者もにこにこ笑顔がこぼれ穏やかな 雰囲気である。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	職員から行事を強制することなく、個々のペースに合わ せ希望に添って多様な支援をしている。		

山形県 グループホーム「ひまわりの丘」

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	自作の野菜の収穫、下ごしらえ、調理、食器拭きと、できることを手分けして行っており、利用者の自信や達成感につながっている。また、職員も一緒に利用者と語らいながら楽しそうな食事風景となっており、外食も楽しみのひとつになっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調を考慮しながら一日置きには入浴するようにしているが、それ以外にも希望があった時や失禁時などは、いつでも入れるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	室内では貼り絵、ぬりえ、刺し子など熱心に取り組んでおり、ホールに作品が飾られることが利用者の楽しみや励みにもなっている。また、戸外では花壇や畑作業、散歩と、その日の天候や体調に合わせて支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	レクリエーション委員会の年間行事の他に、買い物や散歩、日向ぼっこなどの外出を多くし、外泊や墓参り希望にも個別に応じている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	玄関には鍵をかけておらず、ボランティアなどのホームへの出入りも自由である。また、チャイム設置、人の出入りが把握できるホームの造りを活用しながら、徘徊がある利用者に応じた対応や支援が行われている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災委員会の計画により、年2回の防災訓練が消防署の立ち会いで行われている。地域住民の協力体制もできたが、今後は、各利用者居室からの避難訓練も実施する予定である。		

山形県 グループホーム「ひまわりの丘」

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表は、併設施設の管理栄養士のアドバイスをもらっている。嗜好や飲み込む力に応じた食事提供、摂取と排泄状況の個別把握により、健康面の支援にも役立てている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広々としており、季節の飾り付けや生花が飾られた居間にはソファコーナーもあり、ゆったりとくつろぐことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りの暖簾が下げられた居室には、ギャジベッドと洋服ダンス、洗面所が備え付けられており、また、使い慣れた家具等を持ち込み、安心して居心地のよい部屋作りが行われている。		